

令和3年度 大分県長期教育計画委員会 委員意見要旨

令和3年8月書面開催

【議事 大分県長期教育計画(「教育県大分」創造プラン2016)に基づく施策の達成状況等について】

NO	分類	意見
1		<p>不読率については、特に中学校における全国平均率との開きが大きく、読書の楽しさ、知る喜びを味わう機会や工夫が不足しているものと思われる。また、思春期の生徒には、感性や想像力等の力を育成することは重要であると認識している。</p> <p>県としては家庭読書の日を設定しテレビを見ない日とするなど、これまで以上の普及に努めることが必要ではないか。</p>
2		<p>大人の読書率が低下していると言われる中で、子どもの読書率が低下するのはごく自然なこと。大人を対象とした読書会等を開催することで、あまり読書をしない保護者の関心を高め、子どもに伝播させていくような普及啓発活動も効果があるのでは。</p> <p>また、公共図書館には敷居の高さを感じる子どもも多いのではないか。身近な街の書店で児童生徒を対象とした読書会を開催したり、オンラインでの読書を普及啓発する活動も効果があるのでは。</p>
3		<p>活字離れで新聞を取っていない家庭も多い。今は家庭で読書をするよりもゲームやYouTubeを見る時間が長い世代。</p> <p>低学年などでは紙媒体で読書を推進していくのも大切だが、一人一台端末が小・中・高校に配備されたのだから、学校や県立図書館など電子書籍で手軽に読書ができる環境を高校生以外でも整備することも必要ではないか。</p>
4	1ヶ月に1冊も本を読まない児童生徒の割合(小学校、中学校)	<p>各学校で作成している児童生徒・保護者向けの通信(学校だより等)や学校のホームページに、先生や保護者(PTA)が執筆する「推薦図書」欄を設けるなどの工夫は行われているのか。</p> <p>また、学校だより等に児童生徒の文章(感想文等)を載せる機会を設けることや、一人一台端末に、色々な推薦図書の冒頭の数ページを載せるなどして児童生徒の興味をひくことも必要ではないか。</p>
5		<p>図書館に行けば、今、学校でどんなことが行われているのか、例えば、各学年での体験活動や学習成果の展示場所としての活用や学校のトピックを知ることが出来るなど、図書館に様々な機能を付加し、児童生徒が図書館を便利で身近な存在として利用するための環境づくりも必要ではないか。</p>
6		<p>本よりも手っ取り早く楽しめる物が沢山ある、子どもに時間がないなど仕方のないこと。そもそもその親たちに読書習慣がなかったり、働いていて時間がないこともあり、親が子どもに本の面白さを伝える機会がないのでは。本好きの私個人としては、読解力、表現力、想像力を上げるためではなく楽しいものとして本を捉えて欲しい。</p> <p>現代の漫画はレベルが高いので読書に含めて良いのでは。また、図書館で映画とコラボレーションした取組なども児童生徒の興味関心を高めるのでは。</p>
7		<p>本から得た感動体験は人間を奮い立たせる力を持っている。また、それを繰り返し蓄えることもできる。そのため、乳幼児期の読み聞かせなど、家庭内で本に親しみ読書習慣の土台を作ることが重要であり、教育・保育現場と家庭との連携強化が必要ではないか。</p>

NO	分類	意見
8	ICT活用を指導できる教員の割合	<p>多忙かつ苦手意識を持った教員が積極的になることは、ICT活用を指導できる教員の割合が既に7割以上となっていることから、今後の大幅な底上げは困難が予想される。教員のICT活用を進めるためには、ICT支援員を活用するのが、ここ数年間としては最適解ではないか。</p> <p>ICTサービスの変化スピードは速いので、そうした環境に教員が慣れていくためにも、過渡的に外部からのサポートを応用していくのが効果的ではないか。教員が支援員と協働することで、研修では得られないOJT的な能力向上も図れるのではないか。</p>
9		<p>ICT活用は教員研修を積み重ねていくことでしか力はつかないと思われる。多忙な中で新しいことを始めるのは時間も労力もかかる。教員個々の努力に任せるのではなく、チームで取り組んでいくことが必要ではないか。</p> <p>特に情報科教員のいない小学校などではICT支援員やアドバイザーなどの外部の力を借りて進めていくことが現場の手助けになるのではないか。</p>
10		<p>ICT活用について単に苦手というだけでなく、「何故必要なのか」の認識の共有が不十分なのではないか。</p> <p>教員のICT活用指導力の向上を図るためには、第4次産業革命期に突入しつつある現代において、次代に生きる児童生徒にとって情報活用能力が必要不可欠であるという前提に立ち認識を共有することで、教員が苦手意識を乗り越えてその能力を向上させることができるのではないか。</p>
11		<p>民間でもそうだがICT活用は世代間で操作技術を含め理解に差があるため、研修については世代間で習熟度を見極めて区別して行う必要があるのではないか。</p>
12		総合型地域スポーツクラブの会員数
13	<p>魅力的なスポーツの導入と必要な指導者の確保の2つの観点で改革する必要があるのではないか。魅力的なスポーツでは、サーフィンやスケートボードのような若者に人気のあるスポーツを加えていくことが必要ではないか。</p>	

NO	分類	意見
14	12歳児一人平均のむし歯本数	<p>「歯みがき指導」「フッ化物洗口」と並行して「食に関する指導」内容を「おやつや飲み物」に関する子どもたちの現状と合わせて保護者向けに情報提供することが不可欠ではないか。コンビニやスーパー、自動販売機で購入できる商品の砂糖の量や商品についての情報を子どもたちだけでなく保護者にも伝えることは肥満防止にも繋がるためお願いしたい。</p>
15		<p>むし歯予防に関しては学校現場では非常によく取り組まれていると思う。そもそも学校で取り組む以前に、子どもが自分を守るために各家庭で行うべきこと。手洗い、うがい、歯みがきなどの習慣化は幼児教育段階で身に着けておくべきものであり、児童生徒や保護者に対し更に啓発する必要があるのではないか。</p>
16	知的障がい特別支援学校高等部生徒の一般就労率	<p>企業の雇用主の方や採用担当者の方に特別支援学校に来校していただくよう積極的にお願いし、普段の授業、普段の生徒の姿を直に観ていただき、意見交換を行う会を設けることができないか。 環境を整えれば、個々の生徒がどれだけの力を発揮できるのかや具体的にどのような仕事が可能なのかを実際に観て、特別支援学校の教育課程もご理解いただき、個々の生徒がどのような学修をしているのかを雇用主の方に知っていただくことで、特別支援学校の生徒を雇用したいという企業が増える可能性もあるのではないか。</p>
17		<p>障がい者を雇用した企業等の方から、障がい者本人の業務遂行能力とともに、私生活の自己管理能力(生活リズムや金銭の管理等)が重要だという話をよくお聞きする。特に知的障害が軽度で、かつ一人暮らしを希望する場合は、よりいっそう自己管理能力の育成が大切になってくると思われる。 例えば、数週間の職場実習中、近隣の社会福祉法人のご協力を得て、家庭から離れてグループホーム等に一人で宿泊し、そこから職場に通勤するような練習をするといった取組はできないか。また、このような取組の中で、将来、家庭を離れて一人暮らしをした時に、どのような生活支援がどの程度必要となってくるかを把握できるのではないか。</p>
18		<p>一般就労率が高い特別支援学校の進路指導の先生や校長先生、高等部主任の先生等にシンポジストになっていただくシンポジウム形式の研修会も効果があるのでは。進路指導の先生方が集まる会は定期的に行われていると思うが、もっと幅広い関係者による研修会も効果的ではないか。</p>
19		<p>就労後、上司や関係者が生徒の特性をどれだけ理解しているのかが仕事の継続の有無に影響を与えていると考えている。例えば、就労当初は特性を理解した仕事内容であったにも関わらず、何らかの理由で仕事内容が途中変更されるとミスマッチが生じ離職するケースもある。障がい者を雇用する企業内で生徒の特性に関する共通理解を持っていただくことも重要ではないか。</p>
20		<p>大分県長期教育計画の取組をより着実に進めるためには、次期大分県特別支援教育推進計画では計画期間を大分県長期教育計画と合わせることを検討してもよいのでは。</p>

NO	分類	意見
21	不登校児童生徒の出現率の国との比(小学校、中学校)	<p>民間団体等との連携として、一般社団法人フリースクール等連合会と連携し、地域に信頼できるフリースクールがある学校であれば、その代表の方に学校評議員(あるいは学校運営協議会)のメンバーに加わってもらうよう当該校に推奨するといった取組を検討してもよいのでは。</p>
22		<p>児童生徒の一人ひとりの居場所が作れない授業、学級、そして学校の在り方を根本的に改善する必要があり、個々に応じた相談体制や家庭との連携等、数々の施策を試みているものの、達成率に届かない現状を課題の複雑な要因で済ませている実態があるのでは。 更に詳細な要因分析を行う必要があるのではないかと。全国や県内の実践例を参考にし、「不登校を出さない」学校づくりについて、それぞれが使命感や責任感を持ちながら尽くすことが涵養ではないかと。</p>
23		<p>学校内の別室登校が広がりつつあるようだが、担当教員には心理カウンセリングなどの素養(研修などを受けて)があることが望まれる。不登校に至った要因の解消がなされないまま、通常の教室に戻すことだけを目標にしているのは、別室登校自体が機能しなくなる恐れがあるのではないかと。</p>
24		<p>いじめに関して、子どもを言葉の上だけで謝らせて解決してしまうなど、先生のスキル不足は課題であり、QUの活用などを上手に取り入れるなど指導力の向上が必要ではないかと。 また、不登校対策については、地域児童生徒支援コーディネーターができて役割分担と生徒の取り残しをしない連絡調整等がより複雑になっている。係をたくさん作れば良いというわけではないし、そのことが先生方に負担をかけているのではないかと。</p>
25		<p>不登校やいじめの問題解決はまだ不十分と言わざるを得ない。ただ、この問題は学校の教職員のみで解決可能なものではないと考えられる。これらの問題を効果的に解決するためには、学校の教職員が中心となりながら、学校と家庭、地域等との連携・協働をどのように進めていくかという観点から取組を進める必要があるのではないかと。</p>
26		<p>不登校というひと括りの言葉で表現してよいものか、と感じるくらい年々その要因が複雑化している。早期に問題に対応したり支援できる、本人や家族を孤立させない体制づくりが必要ではないかと。また、最近は人間関係を上手に作れない生徒が多く、コミュニケーション力をどのようにつけていけるかも大切なことではないかと。</p>
27		<p>子どもたちにより年齢に近いSC・SSWの方が子どもたちの心のハードルが低くなるので有効だと感じている。ただ、特に若い男性がSSW1本で働ける勤務状況ではないことなどから、なかなか定着しないのは残念であり待遇改善の検討も必要ではないかと。</p>

NO	分類	意見
28		<p>世界の新型コロナウイルスの感染拡大状況を見ると当面は収束の兆しが見えない。アフターコロナでも元通りの世界に戻ることは難しく、数年間はウィズコロナを想定した活動が必要だと考える。そうした場合、スポーツ分野以外の目標については、もっとオンラインの工夫ができるのではないか。企業インターンシップについても、企業側が慣れていない問題であって、工夫次第で可能となるのではないか。</p> <p>現状、ネットではいろんなサービスが開発されており、様々なケースに合わせて、そうした便利なモノやチエをどんどん活用していけるのではないか。</p>
29		<p>学校教育の取組を主体としたものであることは理解できるが、県民と協働する視点が「働き方改革」だけでは不十分ではないか。PTAをはじめとする県民がいかに学校教育に積極的に関わっていくかという視点が必要ではないか。</p>
30	計画・施策についての提案等	<p>学校教育の大きな目標である「学力」に関しては、一定の成果が見られる。これは本県の「芯の通った学校組織」の考え方等に基づき、教職員が取り組んだ結果であり、今後は更に効果的な教職員研修の確立等を追求し、学力向上に取り組んでいただきたい。</p>
31		<p>新型コロナウイルスの感染拡大状況に合わせて、インターネット活用の検討が積極的に進められているものの、変化の激しさに対して、スピード感をもって施策を展開していくためにはアジャイル的な発想が求められているのではないか。</p> <p>また、DX時代にはデザインシンキングや創造的破壊思考が必要とされてくるので、そうした時代の要請に合わせた課題認識と取組を検討していけないか。</p>
32		<p>第4次産業革命期においては、ほとんどの仕事はICTにとって代わると予想されているが、その中で文化・芸術をはじめ、人と人とのコミュニケーション能力が一層大切になると言われている。</p> <p>このため、ICTを活用した授業を推進すると同時に、コミュニケーション能力の育成にも力を入れていただきたい。</p>